

SLA通信

第20号

〒460-0024 名古屋市中区正木1-2-8

(財) シニアルネサンス財団内

TEL 052 332 7883

「インターネットでチン」

中部SLA協会 会長 田中 芳雄

最近、テレビのコマーシャルでこんな言葉が聞かれるようになりました。知らないかたは、なんのことだろう? と興味を覚えませんか。

……チンは電子レンジのことで……「インターネットで電子レンジ料理をしよう」という、電子レンジメーカーのコマーシャルなのです。(まだ、現在では電子レンジがインターネットに繋がっているわけではありませんが、パソコンによりインターネットから取り込んだ料理のレシピ・データを電子レンジに連結しチンする訳です)

これからの世の中、「インターネット」はテレビ、新聞、ラジオ、電話と同じように、身近な情報伝達手段として驚異的な進歩が伺われ、シニアにとっても避けて通れない時代になり、文字情報はもちろん、インターネットで音声、映像(写真や動画)が常識になりつつあります。

インターネットが出来るのは、パソコンだけでは無いのです。ワープロ、携帯電話は、既に対応している機種がどんどん発売されています。

皆様は、「情報家電」と言う言葉をすでにお聞きの事とおもいますが、インターネットに注目しているのは、情報機器メーカーばかりでは無いのです。電気メーカーはもとより、ゲーム、銀行、証券市場、小売市場、学生の就職情報とあらゆる産業の分野に影響を与えています。

もうすぐ、テレビはもちろん、電話機、テレビのゲームコントローラーや、冷蔵庫、その他、身近な製品がインターネットに繋がるのは時間の問題です。

また、学校関係では、すでにパソコンの教育ではなく、次のステップのインターネットに対応した教育も始まりだしました。

10月28日の「インターネット体験勉強会」のおり、当日の参加者に、NTT西日本がモニター募集をしていた、「テレッサ」【簡単にインターネットに繋がり、操作も画面を見ながらペンを使用する(キーボードは使用しなくてよい)機器】に7名の希望者があり、これからの取り組みが楽しみです。

混迷の20世紀もあとわずか(いや、あと1年あるとお考えの方もいますが)新しい年に向かって、新しい事に挑戦しましょう。

さいごに、ご家族一同良いお年を迎えられる事を祈ります。

中部SLA協会「創立記念」行事実施報告

日時 平成11年10月1日(金)
場所 伏見ライフプラザ12F(第一研修室)
出席者 30名

第1部

講演 「保険と財産運用について」

講師 住友海上火災(東京本社)長期保険部年金介護チーム

課長 住岡伸一氏

住友海上ゆうゆう生命保険中部支店

課長 尾崎友彦氏

貯金は財産を増やしていくのであるが、保険は病気災害等の補償をつけて、財産を作っ
てゆくのである。それゆえ、貯金は三角、保険は四角といわれている。60歳を定年として、
ゆとりあるセカンドライフをおくるための財産準備は、公的年金だけではこころもとない。
自己に最適の方法で無理のない財産保全を図って、快適なシニアライフを送ってほしい。

第2部

提案事項の審議

1 会長の任期の延長について

会長の一年任期では、満足の行く活動ができないので二年任期にしてはどうか。
いろいろな人に引き受けていただいたほうが変化に富んでよい。
幹事会で検討する。

2 幹事の70歳定年の廃止について

役員定年制が決まるまでの経緯を考えると、安易に改正することはさけたほう
がよいのではないか。
次期の総会でもう一度検討することになります。

3 会員の資格趣味等の登録について

会員の資格趣味の登録をして、各方面に活躍の場を広げてゆきたい。
プライバシーの問題もあり、あまり好ましいことではない。
以上会員同士で忌憚のない意見が出たことは非常によいことであり、SLA
が向上していくうえの、ワン・ステップとなるのではないのでしょうか。

*鈴木正司氏急用のためプログラムに変更のあったことをご詫言いたします。

インターネット体験勉強会の実施報告

田中 芳雄

日時 10月28日(木) 9:30~12:30 参加者 16名
場所 名古屋栄NHKセンター 8F 西日本NTT PLANET

- ① パソコン通信とインターネットの違い
- ② インターネットの仕組み
- ③ プロバイダー(接続業者)との契約
- ④ ホームページ その他

この日、被告席に立っている春日井市神領在住の男性は、まだ20代の若者でした。偶然にも隣町に住んでいる私としては、驚きと、不安を覚えました。

現在、社会でいろんな事件や事故の情報を見聞きしますが、それらが、遠くでの出来事ではなく、知らずに我々のまじかに数々発生している事を思うと、社会生活を送るには、何と多くの緊張感が必要でありませうか。21世紀は、これらのストレスがなく、安全で、安心して社会生活が送れる様にと、願わずにはおられませんでした。その為に、私にも何か出来る事はないかと考えさせられる一日でした。

初冬の尾張路・お寺巡りと漬物

松本 敏子

気持ちの良い晴天に恵まれて、14名の会員が参加された尾張部会の研修会は、江南市の曼陀羅寺の塔頭（子院）修造院住職の、お話からはじまりました。

パソコンに原稿を打ち込んで、時々見ながら、自分の主観を述べられました。が28歳独身という若さに似合わず、しっかりしたお説法でした。その中でも、子供には我慢させることが、人間形成上とても大切だとおっしゃったことが、今の世相に必要な事だと私も感ずる事でした。

昼食は、近くの「大門茶屋」でお庭を見ながら「菜めし田楽」をいただきました

その後、扶桑町の「壽俵屋」で守口漬が作られる過程のビデオを観、漬物の試食をさせていただきました。全国的知名度はないけれど、味はこのメーカーの品が地元では評判が良いようです。

今年の園遊会で天皇陛下、美智子皇后にお目にかかった話もされました。

「紅葉寺」で有名な犬山市の寂光院に行き、美しい紅葉を愛で、犬山城を間近に仰ぎ、遙か遠方に広がる名古屋の街並の展望を楽しみました。

岐阜部会

活動報告

施設見学会

日時 9月24日（金）10:00～14:00

場所 ケアハウスさくら苑・ケアハウス寺田・ロイヤルコート寺田（老健）

参加者 6名

岐阜部会では、今年度の活動目標「老人介護」の一環として、「ケアハウス・老人保健施設」の見学をしました。

ケアハウスは、一人で自分の事ができる高齢者を対象に、一人一人独立した部屋（バス・トイレ・キッチン付き）に生活し、食事は共同、費用は年収に応じて決まる。「さくら荘」は、敷金のようなものはいらませんが、「寺田」は、一時金として、250万～450万円必要である。

「老健」は、一人では自分のことはできないが、病院へ入院するまでもない人を対象に、原則として、3ヶ月を目途に入所もでき、ショートステイ・デイケアなども行われている。

所内では、ボランティアによる、いろいろな指導がある。（例えば、習字、コーラス等）今回行った施設は、私立（岐阜に公立のケアハウスはない）であるためか、同じサービスが受けられるよう、まだまだ問題が山積しているようです。

老健についても、もっと改善すべき点があるのではないのでしょうか。職員の話のみ聞きましたが、入居者の話も聞いてみると、違った角度からの勉強ができるのではないかと思います。（尾関 恵子）

地域ボランティア活動についての研修

日時 12月13日(月) AM10:00~13:30

場所 サマランカホール 参加者6名

シニアライフアドバイザーとして、今まで勉強してきた事を、地域のボランティアと横のつながりを持ち、活動するにはどうしたらよいか。こんな問いかけの参考にと、岐阜市役所文化、生涯学習科職員を囲んで、座談会形式で話し合いを行いました。

《訃報》

2期生 藤村悦子様 には、去る9月16日、肺炎のため 名古屋市立大学病院で、急逝されました。茲に謹んでご報告申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

《思いでは希望のカーテンの彼方に》

山下 可子

藤村悦子様の突然の訃報を、岐阜県ご在住の藤村さんの弟さんからいただいて驚きました。あんなにお元気で、希望を持って前向きに生きていらっしゃったのに……。藤村さんと私は、平成6年10月2日創立記念日からSLA活動を通してのお付き合いでした。

あれから5年後、平成11年6月某日、お電話で

『近日中に(6月17日)、電話相談に行くので、新しい資料があったら欲しいのです。』

『平成11年度の資料が手もとにあるので、お送りしますわ。』

と会話を交わして数日後、2期生今泉治子さんと3人で、名古屋市役所の前でお会いした時、お茶でもいっしょにと、思っていたら、藤村さんは

『やることがいっぱいあって、忙しくてお付き合いができなくて、ごめんなさいね』と。

このときの出会いと、資料を受け取ったというお礼の電話が、最後となりました。

藤村悦子さんは、いつも前向きで、力強い正義感あふれる抱負を堅持しておられたことが、下記のように、強烈に印象に残っています。

①平成7年3月5日：第一回生き生き教室(初代福村正樹会長)名古屋会場で、受付、会計を受け持って、運営の一翼を担っていただきまして、見事にてきぱきと処理されたこと。

②電話相談活動には、格別の思い入れがあり、特に年金問題については、新しい資料で勉強を続けておられたこと。平成6年度第一回生き生き教室以降、折にふれてSLA活動の資料を探して情報交換すると、前向きに研究されるので、私も共に勉強できました。

③定年退職前後の悩み110番電話相談を引き受けるにあたって、綿密に研究しておられたこと。相談者の立場にたった研究は、一本、筋が通っていました。年金スーパーバイザー杉浦玲子さん(3期生)も『藤村さんの年金に関する勉強ぶり』を称えておられました。

以上、SLA活動の『第一回生き生き教室』『資料の収集と110番電話相談』を通して、実践力あふれる藤村さんと5年間、親しくお付き合い出来ました思い出は、今も、私に『希望を持って生き生き生きること』を示唆してくださっているようにおもいます。

ありがとうございました。藤村悦子さん!!心からご冥福をお祈りいたします。11.12.18